

近森病院附属看護学校

安全祈願祭と新校舎構想

近森病院附属看護学校
事務局長 和田 廣政



平成 28 年 2 月 2 日（火）に近森病院附属看護学校改築工事の安全祈願祭を執り行いました。

新校舎は、旧近森オルソリハビリテーション病院移転後の建物を改築

し、28 年 5 月中旬に管理棟から移転開校し、完成後は 1 階から 5 階を使用します。

新しい看護学校の建築に当たっては、ジェネラリストとして看護実践能

近森病院附属看護学校

5F	第 1 ～ 5 看護実習室
4F	第 2 ・ 第 3 教室 情報科学室 ・ ゼミ室
3F	第 1 教室 ・ 交流スペース ゼミ室 ・ 研修研究室
2F	図書室 ・ 職員室 ・ 保健室
1F	受付 ・ 学生ラウンジ ・ 相談室

力のある看護師育成を目的に教育環境を整備し、教育の質を高めるための学び舎を目指して、平成 27 年 5 月から改築の検討を開始しました。教室、看護実習室、情報科学室、ゼミ室、図書室、学生ラウンジなど看護を学ぶキャンパスとして、充実した施設となる予定です。

なお、6 階から 8 階は近森教育研修センターとして、近森会グループの関係者だけでなく地域の医療従事者等の教育、訓練を行える施設として利用する予定です。

4 月からは新 1 年生を迎え約 80 名になりますが、移転まで今しばらく管理棟を使用させていただきます。皆様にはご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いたします。

わだ ひろまさ

4月の歳時記

絵・近森病院
附属看護学校事務局 南幸子

桜



近森病院 6B 病棟
看護師 黒岩 唯

4 月にはたくさんの種類の花がありますが、桜の花を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。桜の開花予想がテレビで流れるようになると、春になるんだなと感じます。

昨年は、お花見を予定した日に雨が降ってしまい、お花見が出来なかつ



たため、今年はお弁当を持って満開の桜の下でお花見をしたいです。

くろいわ ゆい

第2回病理解剖体慰霊祭

貴重な病理解剖で 得られた経験を大切にして

近森病院病理診断科
部長 円山 英昭



第2回病理解剖体慰霊祭は平成26、27年の2年間に病理解剖させていただいた28名の皆様のご冥福をお祈りすると同時に、解剖をご承諾いただいたご遺族の皆様に心からの感謝の気持ちを込めて、平成28年2月21日(日)に当院の大会議室で行われました。

当日はご遺族の皆様と共に、診療に関係した院内各職種のスタッフ、初期臨床研修医や昨春開設した附属看護学校の学生も参列しました。

私たちは解剖後、ご生前の臨床事項と解剖により直接得られた結果とを詳細に検討し、病気の経過やお亡くなり



になられた病因をより正しく知ることが出来ました。さらに、研修医は主治医の指導の下に一連の学習を通し、病態や医療を系統的に深く学ぶことが出来ました。看護学生は将来、医療に直接携わる者として、多くを考えさせていただきました。

私たちはそれぞれ、解剖により得られた経験を大切にして、これからも最善、最適の医療の実践に努めます。

合掌 えんざん ひであき



PS 通信

幸せになる方法

幸せになるハウツーがあれば……、そう考えたことはありませんか？

幸福学という幸福についての科学的な研究によれば、人が幸せになるには三つのコツ(「人との交わり」「親切心」「ここにいること」)があるそうです。「人との交わり」でいえば、内向的か外向的かに関係なく、ほんの少しでも人と関わりを持つように行動すること(たとえばコンビニで

店員さんに軽く話しかける)で、幸福感はアップするとの結果が！

また他の二つのコツと合わせて考えると、普段の生活の中で、周りの人に心配りしあいさつをしたりすることが幸せへの道標となるようです。

そんなことで?とちょっと疑ってしまいますが、でもそんな簡単なことで幸せになれるなら…。

皆で Let's Be Happy !



待ちゆきね!

CHIKAMORI OPEN HOSPITAL 平成28年度

次回 **5/7(土)**

時間 **13:30~16:00**

対象者 ◎看護学生および保護者 ◎有資格者(看護師)

社会医療法人近森会 看護部長室
kango@chikamori.com

近森病院 検索

自発的に行動できる 看護師を目指して

近森病院 7A 病棟

看護師長 西岡 成巳



7A 病棟は消化器を主体とする内科の病棟です。当病棟は生命維持に必要な栄養や、排泄に関してトラブルを抱えている患者さんが多く入院されています。対象となる臓器も多く、炎症性の疾患や腫瘍性の疾患と様々で、良性・悪性の疾患がありそれぞれに検査・治

療法が異なります。また若年層から高齢者と年齢層も幅広いということも特徴といえます。

今年度、病棟目標を「患者さんとそのご家族一人ひとりに向き合い、関わりの深い看護を実践する」として取り組んでいます。急性期の状態が安定せず身体的苦痛が強いときは、異常の早期発見、原因を検索し少しでも苦痛が緩和できるように看護しています。症状が安定してくる頃には、その後の療養場所の選択や調整など、できるだ

け今までの生活へ戻れるように多職種（管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、歯科衛生士）と連携しています。今、その患者さんや家族にとって困っていること、気になっていることなどを看護師自ら問題提起し、カンファレンスを行い、課題解決に向けて取り組んでいます。

病棟では予期せぬ病気や状態の変化によって、患者さんとそのご家族の苦痛や不安に接することが少なくありません。看護師が自発的に考え、自発的な行動が出来ることで、患者さんとそのご家族の思いを尊重し、ベストサポーターケアを実践していきたいと思っています。これからも患者さんやその家族が安心して治療、療養できるようにチームで支援していきたいと思ひます。 にしおか なるみ

ハッスル研修医

2 回目の春



初期研修医 松浦 洋史

早いもので研修が始まり1年が経ちました。クリスマス、バレンタインと世間では楽しいイベントも特に甘い思いをすることはなく、「出会ってないから別れることもできない」、そんな2回目の春がやってきました。

当初は何もできなかった自分を思い出すばかりです。4月の採血強化週間には、毎朝患者さんの採血をさせてもらいました。失敗続きのなかで看護師さんに指導を受け、1週間も過ぎると徐々に上達していくのを感じました。何より協力してくれた患者さんのなかには「大丈夫よ」と優しく声をかけてくれる人もいて、ありがたい気持ちと申し訳ない気持ちでいっぱいでした。たくさんの人に支えられて一歩ずつ積み重ねてきたことを改めて気付かされます。

もちろん今もかわらず、多くの人から学び毎日成長させてもらっています。一つ一つの出会いを大切に、出会ってよかったと思われる人物となれるよう精進しますのでこれからもよろしくおねがいします。

まつうら ひろし

変わらざるを得ない高知の医療



近森 正幸

この4月の診療報酬改定では医療機関の機能分化が進み、チーム医療や地域医療連携を充実させ、在宅や施設と連携して地域で支える地域包括ケアが主体となっています。

急性期病院においても重症度、医療・看護必要度が一層厳しくなっており、平均在院日数や在宅復帰率と併せ、重症の患者さんを早く治して早く地域に帰っていただくことが、これまで以上に求められるようになってきました。

2年後の2017年度末で介護療養病床と看護配置25:1の医療療養病床の設置期限を迎え、高知県では全国でもっとも多い4,200床以上が対象となっています。廃止される病床の転

換先としては高い施設基準にグレードを高めるか、施設化するか、廃院するかの三つの方向性が考えられますが、患者さんの行き場がないことから、現状よりも看護、介護スタッフの少ない施設に転換する病床が多くなるように思います。

いままでは高齢の衰弱した重症患者さんにも救命のために積極的に治療を行い、合併症を起こし寝たきりになっても、療養病床をお願いしておりました。しかしこれからは自宅で家族が看るか、自己負担の高い施設に行かざるを得なくなります。

日本で寝たきり患者さんに行われている胃瘻は、北欧では子供用しかなく、フランスでも近年寝たきり患者さんが急速にいなくなっています。老衰で自分で座って食べることが出来なくなってしまったら、数日で死んでいく時代になっています。

そこまでいなくても、療養病床のもっとも少ない長野県では積極的な医療を行わない看取りがすでに始まっていますが、人間の死に対する考え方や生きるとはどういうことか、どんな死に方を迎えるべきかが、いま高知県でも問われているように思えてなりません。

理事長・ちかもり まさゆき

乞！熱烈応援

チームで育む



近森病院血液内科
部長 上村 由樹

この度、新しく血液内科を立ち上げることになりました。血液内科の診療は、医師、看護師だけでなく、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカー等が、総出で行うチーム医療です。

馴染みの少ない疾患の受け入れに、少し戸惑いもあるかとは思いますが、スタッフの皆さんと足並みを揃え、しっかりと根付かせていきたいと思えます。

うえむら よしき

強固な連携づくりを目標に



近森病院地域医療連携センター
看護師長 村田 美和

現部署に配属されて早いもので5年目になりました。

管理者として成長していくとともに、強固な連携作りを目標とし、近森病院が急性期として地域に求められる役割を果たしていきたいと思えます。

さらに、持っている力を最大限発揮できるような情報発信・調整を行い、円滑な運営のため努力していきたいと思えます。これからもよろしくお願います。

むらた みわ

頼れる主任へ



近森リハビリテーション病院
作業療法科主任 矢野 直子

今日までたくさんの先輩方に助けていただきながら働くことができました。主任心得の話をいただいた際に、今度は私がしっかりと後輩や上司を支えていく役割を果たしていこうと思えました。

先輩や後輩から「困ったときは、矢野さんに頼めばなんとかなるよ、大丈夫！」と一日でも早く思ってもらえるように、日々精進していきますので、よろしくお願います。

やの なおこ

ワイン講座 ● 41

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その18

イタリア篇 ネレッロ・マスカレーゼ

50万年前から活動を続けるヨーロッパ最大規模のシチリア島北東部に位置する標高約3,340mの活火山エトナ山の斜面が、理想の畑と言われている。

その昔ネレッロ・マスカレーゼ種はどちらかというとシチリアではブレンドぶどうとして用いられていましたが、このエトナ山で最大の真価を発揮、今やシチリアで最も注目される葡萄になっています。

暑いと思われるシチリアも、標高600m以上になると、気候は思いのほか冷涼でワインに強い酸をもたらす、かつ北部一帯の畑はエトナ山がもたらした火山性の土壌で、溶岩のミネラルがぶどうに複雑さを与えて

パッソピチャーロ／パッソピチャーロ／イタリア、シチリア州●この品種からこれほど素晴らしいワインが出来上がるかを証明する1本と言っても過言ではありません。樹齢の高い古木から生まれるこのワインはまさにエレガントという言葉がぴったりのワイン。

います。

赤系の果実のチェリーやラズベリーのエレガントな風味と絹のように繊細な味わいが身上で、余韻に感じられる酸とミネラル感が全体を綺麗に引き締めています。

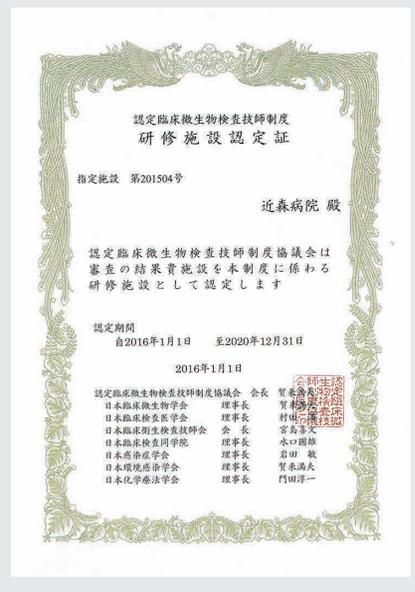
エトナのテロワールを余すところ無く表現した素晴らしいワインになります。トップクラスの生産者のものは、上質のブルゴーニュを思い起こさせる優美なワインに仕上がります。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



近森病院 研修施設に認定

認定臨床微生物検査技師制度協議会によって、認定臨床微生物検査技師制度に係わる研修施設に認定されました。



乞！熱烈応援

これからも成長します！



近森リハビリテーション病院
作業療法科主任 品原 朋子

近森リハ病院で実習生として学ばせていただき、翌年に就職し、今年で13年目を迎えました。

これまで、先輩方にたくさんのことを教わり、同期や後輩にも支えられ、様々な経験を積むことができました。

まだまだ力不足ではありますが、科の運営や後輩指導に、精一杯取り組んで、仲間と共に成長していきたいと思っています。

しなはら ともこ

地域への発信



訪問看護ステーションちかもり
作業療法科主任 横山 大輔

作業療法歴約13年、訪問リハビリテーションに携わってから約8年が経過しました。訪問リハビリテーションは、地域に出てたくさんの職種と交わる機会が多い仕事です。

これまでの仕事のなかでもさまざまな問題に直面し、その度に自らの社会的スキルについて考えさせられてきました。これからも積極的に地域に出向き訪問リハの役割を考え発信できるよう、努めていきたいと考えています。

よこやま だいすけ

明日に向かって



高知ハビリテリングセンター
生活支援部主任 別役 永英

「明日は明日の風が吹く」私がファミリー高知のホームページに顔写真とともに載せてある言葉です。楽天的な言葉ですが、私は明日いい風を吹かせるために今日を頑張ろうと日々の業務に励んでいます。

主任心得を拝命し、まだまだ力不足ですがハビリ内でパイプ役としてより良い風が吹くように頑張っていきますので、ご支援、ご協力宜しくお願いいたします。

べっちゃん のりひで

YO 走った!! 龍馬マラソン

応援団のおかげで無事に完走

近森病院6A病棟

看護師 尾崎 裕美

▼執筆者は前列左から2番目



1年前、休憩中にTVで龍馬マラソンを見て「いつかは出たいがよね～」と同僚と話し、じゃあTシャツ作ってマラソン部を作ろう!!と即決。龍馬マラソン出場経験のある西本先生を部長に、マラソン経験豊富なPTの北井君にコーチを依頼して、脳神経系のスタッフで「YOマラソン部」を結成しました。



1年間マジメに？練習して、迎えた龍馬マラソン当日。部長とコーチ以外は初フルマラソン。部長は途中、救命活動により棄権となってしまいましたが、コーチをはじめ部員は全員完走することができました。

途中何度も「もう嫌。マラソンなんてやめてやる」と思いましたが、途中ですれ違うマラソン部のメンバーや

自転車で追跡して応援してくれる応援団のおかげで無事に完走することができ、あの感覚を味わうとまた来年も走ろう!!今年よりも良いタイムでゴールしよう!!と思えてくるから不思議なものです。

まだまだ、部員絶賛募集中です。興味のある方は、ご連絡ください。

おさき ゆみ

2016年2月5日

▼公益財団法人慈愛会今村病院
分院 救急・総合内科 (ER) 部長
林恒存先生

総合診療医や 日米の研修制度の違いなど

研修管理委員会プログラム責任者
近森病院外科部長 八木 健



鹿児島県の今村病院分院の救急・総合内科で部長をされている林恒存先生に、「日本の研修指導医が米国で再び研修医をやってみて今思うこと」と題してご講演いただきました。

林先生は10年間日本で臨床を経験された後に、7年間米国に渡り、ハワイ大学やピッツバーグ大学で臨床研修を受けたという、異色の経験の持ち主です。

この日は米国に行くまでの経緯・総合診療医について・日米の研修制度の違いなど、ユーモアを交えて熱くお話いただきました。

なかでもいちばん圧倒されたことは、米国で研修ができるようになるまでに、7年間もの間何度失敗してもあきらめずにチャレンジを続けた、林先生の「思い」の強さでした。



最後にお話しされた、「No Rain、No Rainbow」（雨が降らなければ虹はできない）という、ハワイのことわざがとても印象的でした。

やぎ けん

第151回地域医療講演会

2016年2月19日

▼京都大学名誉教授
千葉勉先生

患者さんとの接触、 単純な検査の解釈が臨床の出発点



近森病院副院長 浜重 直久

「既往歴、単純な検査の重要性」と題して御講演し

2月19日、京都大学医学部消化器内科前教授の千葉勉先生においでいただき、

ていただきました。

先生は、消化管ホルモン、炎症性疾患と発癌、消化器病と遺伝子など、消化器疾患の多くの領域で多数の研究成果を世界に向けて発信してこられました。一方で、附属病院の救急部長、副院長、癌センター長などを歴任され、臨床や教育にもひとかたならぬ熱意を



示してこられました。

今回は、京都大学での退官記念講演の内容などをもとに、若い人達へのメッセージをお話していただきました。患者さんに細かく接し信頼されること、単純な検査をきちんと読み解くことが臨床の出発点であり、未解決でも興味深い症例は記憶や記録に残しておくことが将来の研究の役に立つことなどを多くの症例をまじえてお話いただきました。

若い先生たちには印象に残る講演であったことと思います。

はましげ なおひさ

第3回 近森会健康保険組合 ポールウォーキング開催

鏡川べり約6.5 kmのコースを歩く

2月21日にポールウォーキングを開催しました。前日の豪雨でどうなるかと心配しましたが当日はいい天気。今回も鏡川べり約6.5 kmのコースを、途中脳トレなどを交えながら



約2時間汗を流しました。インストラクターはお馴染みの安岡知洋先生。ゴールでは「あ〜ビールが欲しい」という声もちらほら。でもお弁当とお茶でめでたく解散となりました。

◀鏡川沿い約6.5 kmのコースを歩き、脳トレなどを交えおよそ2時間、汗を流しました



Time is Brain

近森会グループ
クリニカルパス委員会副委員長
近森病院循環器内科
部長 山本 哲史

t-PA治療とは、脳梗塞の原因となっている脳動脈の閉塞を再疎通させる治療です。

治療が奏功すれば瞬く間に神経症

状が改善しますが、閉塞時間が長ければ障害は固定化されます。より早期の再灌流が重要で、まさしく「Time is Brain」です。

多忙を極めるERで、あまつさえ時



間に制約のあるt-PA治療においては、診断から治療までが標準化されているパスは非常に有用です。

SCUに入院後も多岐にわたる観察項目が明瞭であり、その変化も継続的に追うことができます。一方で、脳梗塞の疾患的特徴からパスとしては、いささか複雑な箇所もあり、また、早期のカテーテル治療も導入されている中、より進化させるべき点も見出されました。

やまもと さとし



コーチフェス

2016年3月5日

コーチフェスを終えて

高知大学・近森病院複合研修プログラム
初期研修医2年目（コーチレジ代表） 猪谷 哲司

吹く風も柔らかな季節となり、皆様いかがお過ごしでしょうか。

コーチレジ代表の猪谷です。こんにちは。

さて、3月5日に近森病院を使わせていただき、恒例のコーチフェスを行いました。コーチフェスは高知の医療界の人をつなげ、高知の研修をアピー

ルする取り組みとして、コーチレジが中心となって2012年から行っているイベントです。

今年は中四国総合医セミナーと一部共催させていただき、フィジカルクラブの平島修先生やドクターGで有名な山中克郎先生など豪華ゲストもお招きし、県内外から研修医、医師、医学生、



医療スタッフなどを中心に多数の方に参加していただき、盛況の中無事終わることができました。

来年も開催されますので、熱い高知の医療界を体感してみたい方は、ぜひ参加してみてください！

いのたに さとし



▲諏訪中央病院内科総合診療部長補佐 山中克郎先生



▲瀬戸内徳洲会病院加計呂麻診療所 所長
フィジカルクラブ部長
平島修先生



▲近森病院で初期研修を行った現厚生労働省医政局地域医療計画課高知医療再生機構特任医師 石井洋介先生

平成 27 年度 初期臨床研修医修了式を迎えて

水色

平成 26 年度初期研修医

黄色

高知大学たすきがけ 2 年目修了

医師としての重要な時期、 近森病院で培ったことを 活かして

研修管理委員会委員長
消化器内科部長 近森 正康



本年度も初期研修医 9 人が 2 年間の研修を無事修了することが出来ました。今回は高知大学とのたすきがけプログラムで 4 名が 2 年目の研修を、また、2 名が 1 年目の研修を無事修了しました。

初期研修医の 2 年間は、これからの医師人生のスタンスを決める上で非常に重要な期間だったと思います。研修が進むにつれ日々頼

もしくなっていく姿を見て、感動を覚えることが何度もありました。

4 月からはそれぞれが専攻医として各診療科に巣立っていきます。当院に残る者、新しい病院に行く者など、選んだ道はさまざまですが、近森病院で培ったことを活かして頑張ってください！

ちかもり まさやす



医師である前に人として

川真田 純

近森病院での初期研修が終わり、医者として、知識はもちろんですが人間性が一番必要であり、またそれが自分にはまだまだ欠けていることを痛切に感じました。今後人間性も高めていけるよう、どんな分野に対しても積極的にありたいと思います。本当にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。



かわまた じゅん



ベスト研修医賞

学んだことを胸に刻み

岸本 達真

ちから一杯研修に挑んだ 2 年間でした。患者さんの急変にあたふたし、もっとできる研修医にと思う日々。理解しあえる同期に恵まれ、あたたかい上級医の先生方、理想的なコメディカルの方々のおかげで乗り切ることができました。眼科医として、近森病院で学んだことを胸に刻み、少しでも高知の医療に貢献できるよう、頑張っていきます。

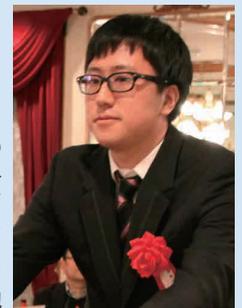


きしもと たつま

烏兔忽々

芝 太郎

そう感じるようなあっという間の 2 年間でした。熱心に指導して下さった皆様のおかげで、とても楽しい初期研修を過ごすことが出来ました。近森での 2 年間はとても居心地がよく、後期も迷わず近森に決めました。引き続きご迷惑おかけするかとは思いますが、今後ともよろしく願います！ 2 年間ありがとうございました！！



しば たろう

緑 色

高知大学たすきがけ1年目修了



人として、医師として成長

田島 萌夢

こんなに楽しい研修でいいのかと思うぐらい毎日が充実しており、忙しいと思う間もなく過ぎ去った2年間でしたが、3年目を前にして確実に私の力になっていると今改めて感じます。それもこれもいつも優しく見守って下さった上級医の先生や辛い時励まし合った同期がいたからこそ、です。関わって下さったすべての人にお礼申し上げます。ありがとうございました！

たしま もゆ



医師像の決まる2年間で

谷岡 信寿

今後の医師像が決まる大切な時間と言われていた2年間、思い起こせば辛かったことも、目を覆いたくなるような失敗もたくさんありました。が、全てひっくるめて実りの多い研修生活でした。素晴らしい同期、後輩にも恵まれ、自分の環境をここまで有難いと感じて過ごした2年間はありません。近森で出会えた全ての皆様、ありがとうございました。

たにおか のぶひさ



目標とする指導医の姿を

福島 大

自分にとって、非常に成長できた2年間でした。近森病院で社会人としての基礎を築けたと共に、気軽に相談し、苦楽を分かち合えた同期は生涯大事にできる存在です。指導医の諸先生方には一からさまざまなことを教えていただきました。尊敬し目標とする指導医の姿を目に焼き付け、石川で消化器外科医として歩んでいきます。2年間ありがとうございました。

ふくしま だい



ベスト研修医賞

基礎を一から丁寧に

藤原 麻美

たくさんの人に支えられながら過ごした2年間でした。外科系研修で手術の楽しさや厳しさを学び、内科研修ではカルテの書き方から患者さんへの接し方まで、医師としての大切な基礎を一から丁寧に教わりました。尊敬する指導医・コメディカルの方々に見守っていただきながら、近森病院で初期研修を送ることができて本当に良かったです。ありがとうございました。

ふじわら あさみ



恩返しできるよう

矢野 慶太郎

あっ！という間でしたが、2年が経って思い返すと、人生で最も充実した2年間でした。それは、優しく指導していただける上司やコメディカルの方々、切磋琢磨しあえる同期の研修医、こんな自分でも慕ってくれる後輩たちに恵まれたおかげだと思えます。4月からは消化器内科を専攻しますが、今後はみなさまに少しでも恩返しできるように頑張っていきたいです。

やの けいたろう



エッセンスを学べる

山崎 勇輝

あっという間に過ぎた2年間、辛い時期もあれば楽しい時期もありましたが、なんとか無事に修了することが出来たのは、何より仲間達のおかげだと思っています。さまざまな科のエッセンスを学べる初期研修は、これからの医師人生において大変貴重なトレーニングになりました。受けた大恩を患者さんと地域へ還元できるよう、今後も精一杯努めてゆきます。

やまさき ゆうき



学びを今後に活かし

猪谷 哲司

私は初期研修2年目の1年間を近森病院で経験させていただきました。この1年間で出会った多くの患者さんにさまざまなことを学ばせていただき、少しは成長できたかなと実感しています。来年度も近森病院で内科医として勤務させていただくので、学んだことを今後も活かせるよう努力していきます。



いのたに さとし

身を引き締めて

小笠原 佑記

まず初めに、多大なご迷惑をお掛けしたと思いますが、初期研修医を終えられることに皆様に感謝を申し上げます。早いもので気が付けば2年間はあっという間の時間でした。今後は研修医という守られた立場では無く、一人の消化器内科医としての診療を行いますので、より一層身を引き締めて診療を行っていきたいと思います。



おがさわら ゆうき

楽しく学び多い研修だった

田村 恵理

2年間ありがとうございました。たすきがけでしたので、2年目の4月に近森病院に来た時は、不安もありましたが、先生はじめコメディカルの皆さんがとても優しく迎えてくださり、とても楽しく学びの多い研修をすることができました。2年間の初期研修も終わりを迎え、3年目からも気持ち新たに近森病院の一員として頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。



たむら えり

謙虚な姿勢を忘れず

山本 ゆい

高知大学とのたすきがけで研修させていただきました。初めは不安でいっぱいでしたが、皆さんのおかげですぐに馴染むことができ、コメディカルの方々から「ゆいちゃん、ゆい先生～」と下の名前で呼んでもらえることがとても嬉しかったです。「高知をもっと元気にする！」をモットーに、謙虚な姿勢を忘れず、患者さんと向き合える医師になれるようがんばります！



やまもと ゆい

忘れられない1年

西村 祐希

1年が過ぎ、PHSが鳴る時の心拍数は120回/分まで下がりました。少しでも多くのことを学び、少しでも患者さんから信頼を得られるようにがんばりに日々を過ごしました。多くの方々にお世話になり、社会人、医療人としての一歩が踏み出せたかと思います。「笑顔で明るく元気よく」これからも頑張ります。ありがとうございました。



にしむら ゆうき

責任の重さ、難しさ、楽しさ

森本 暢

1年間の近森病院での研修を終えて感じたことは医師免許を持ったら医師なのだということでした。研修医でありながらも一人の医師として患者さんと接するなかで責任の重さ、難しさ、楽しさを自覚する機会が多かったことが印象に残っています。来年は高知大学病院での研修となり、近森病院で学んだこと還元できるような研修を送れたらと考えています。



もりもと とおる

優秀指導医賞



▲辻井茂宏外科科長

3年連続受賞
殿堂入り!



▲中岡洋子循環器内科科長



▲三木俊史救急科科長

私の趣味

小さい頃からの趣味、
最近の趣味

近森リハビリテーション病院
3階病棟東准看護師 高橋 義典



自分は多趣味で、DVDを観る、漫画を読む、ゲームをする、プラモデルを作る、音楽を聴くなどと色々としています。

なかでも小さい頃からの趣味は、「絵を描く」ことです。絵といってもイラストのような感じの絵を描く程度です。始まりはノートなどへの落書きで、自分で想像した現実には存在しないモノを絵に描いていくことが楽しいため、今でも同じ趣味の友達と互いの絵を見せ合い、意見を言い合い楽しんでいます。また上記で挙げた他の趣味からも絵を描くために必要なアイデアを得ているため、自分にとっては必要な趣味となっています。

最近の趣味としてアイドルのファンがあります。自分が出不精と人見知り、アイドルのライブなどに行くことで、＜普段の生活では体験できないことが体験できる＞＜ライブなどの開催地を観光できる＞などの利点があると同時に旅行の経験にもなっています。また色々に行くことで＜絵のアイデアとして使えるようなモノを発見できる＞という利点もあります。

上記に挙げたような趣味で利点や経験を得て、絵のアイデアとしても活かせるモノがあると思うため、今後も継続しようと思います。

たかはし よしのり

支援のはじまり

近森病院総合心療センター
医療相談室主任 植木 美佐



精神科ではときに患者さんの意に反した治療を行うことがあります。自殺しようとしている人、幻覚や妄想により混乱状態にある人……。その際、拒否するご本人に代わって同意するご家族は「本人を守るため」と心を鬼にして相当な葛藤状態の下、入院の決断をされます。

家族思いだった優しい母親の変貌ぶりや、学生であるわが子の将来を案じ、張り裂けそうな気持ちを涙と共に話される方も少なくありません。「とにか

く普通の生活ができるようになって欲しい」、ご家族から一番よく聞かれる言葉です。

ソーシャルワーカーは、そんな心情に寄り添い、ご家族が孤立することがないように、入院中の関わりを通じてご本人とご家族が共に生活の再構築に取り組んでいける様に支援します。

まずご本人と、そのご家族の思いを聴かせていただく。それが私の支援のはじまりです。

うえき みさ

リレー エッセイ

自転車、カメラ、旅行

就職し、高知に来て、早2年が経とうとしています。それまでは高知のこともあまり知らず、鯉、よさこい、土佐弁などありきたりな印象しかもっていませんでした。実際に高知で住みだすとそれは高知の良さのほんの一部であることを知りました。

広大で美しい仁淀川や四万十川、桂浜から望む太平洋、そこで取れる海の幸の数々。知れば知るほど高知というところは魅力的な土地であると感じました。そして高知に住むからには、高知県の良さを全て知りたいと思いました。

それもあり就職してから新しい趣味として自転車、カメラ、旅行を始めました。休みの天気の良い日にはカメラの入ったカバンを担ぎ、自転車に乗ってぶらぶらするのが現在の楽しみの一つです。雑誌や広告、ネットなどでめぼしいところを見つけて



近森病院 SCU
看護師 瀨口 拓也

は、西は土佐久礼、東は室戸まで自転車で走りました。

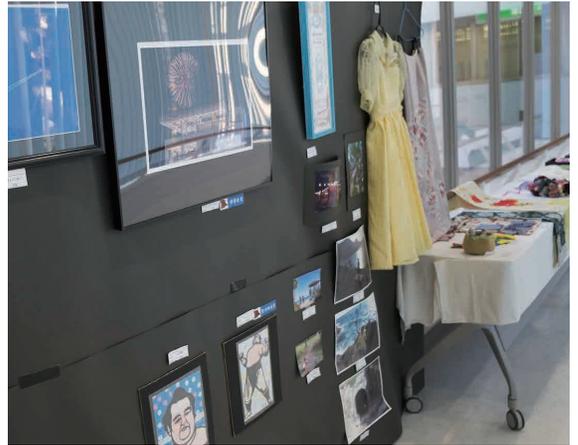
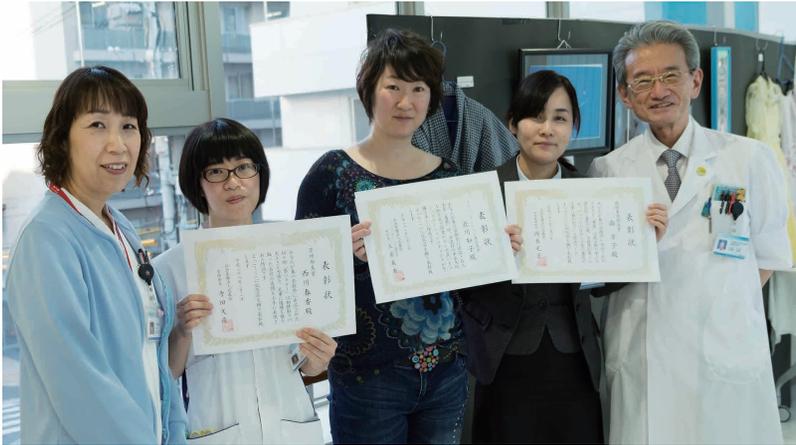
風を切って走りながら、きれいな風景を見つけてはカメラを構え写真に収める。そうしていると長い旅路もまた楽しい時間になります。また行った先で温泉に入り、

その土地の名産品に舌鼓を打つ。それが僕の旅行の定番となりました。実際に自転車で走ることによってその土地のことをさらによく知ることができ、地元に住んでいるときには感じるものがなかった感動が多くありました。

どれだけ走っても、まだまだ行きたいところは尽きることなく、これからもどんどん高知を知り、楽しんでいきたいと思っています。

はまぐち たくや

芸術祭



理事長賞

「イリュージョン」



近森病院5カ年計画が完成し、そのシンボルであるヘリポートの上にそれを祝うかのような大輪の花火が上がっている状態は、「理事長賞」にふさわしい写真である。

近森病院放射線科部長 宮崎 延裕

このたびは理事長賞という大賞を頂き、光栄至極です。この写真は、新リハビリテーション病院の屋上テラスから撮影しました。鏡川で打ち上がった花火が、あたかもヘリポートを照らす様にガラスに映り込み、正に「幻影（イリュージョン）」でした。合成ではありませんよ（笑） みやざき のぶひろ



管理部長賞

「琴バウアー」



大きさと力強さ、身体と廻しの白黒のコントラストを切り絵によって上手に表現されています。欠点である本番の集中力と精神力を克服して見事に優勝を勝ち取った自信が、表情に溢れています。

近森病院透析室
看護師 西川 春香

題材を考えていたら、10年振りに日本出身力士の優勝というニュースが！相撲好きということも相まって即決（笑）。初挑戦の切り絵で、賞をいただき！これも旬な力士、琴奨菊関のおかげです。 にしかわ はるか



統括看護部長賞

「黄菊」



今回の展示物のなかで目を引く、黄色の菊。イラストでありながら、立体感が感じられる作品であり、一つ一つの花びらや葉の濃淡が丁寧に描かれている作品でした。

近森病院附属看護学校
南 幸子

この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。歳時記でたくさんの花を描かせていただきましたが、派手で艶やかな花もよし、地味だけど芯のあるような花も好きです。菊はその両方を兼ね備え、見応えのある花だと思います。

みなみ さちこ



コミュニケーション委員長賞

「薔薇」



今、流行りの半永久的な加工花で、作者のセンスの良いカラーバリエーションのチョイスが、可憐で美しい作品です。

近森病院 7A 病棟
看護師 北川 知子

同僚になにか出してみたらと、声をかけてもらい、密かな趣味であった「プリザーブドフラワー」の作品を出してみました。まさか賞がいただけると、おもってもみませんでした。同僚に感謝です。

きたがわ ともこ



歯科衛生士は予防に力を入れ、 口腔内のクリーニングを

近森病院 8A 病棟
歯科衛生士 矢野 菜々



アメリカの歯科分野における 予防医学という観点

近森病院臨床栄養部
管理栄養士 中西 花



ハワイ州ホノルルで、国際交流セミナー&視察研修が開催され、当院からは北村副院長、中西管理栄養士と私の3名が参加しました。主催者は高知大学医学部附属病院外科の小林道也教授とT&K株式会社で、がん治療におけるエキスパートの方々です。

現地ではハワイ大学医学部や歯科医院、病院の見学をさせていただきました。ハワイは日本と保険制度が異なり、治療となると莫大な費用がかかります。そのため歯科では予防に力を入れており、歯科衛生士は日本と同様に口腔内のクリーニングを専門的に行っていました。国は違っても患者さんの健康を口腔から支えるという意識は同じで、口腔衛生の重要性と歯科衛生士という職業の使命を再認識しました。

セミナーでは演者として当院の歯科衛生士の取り組みについて発表させていただきました。参加者の方々からはたくさんのご意見やご質問が寄せられ熱くディスカッションすることができ、非常に充実した3日間でした。ありがとうございました。

やの なな

今回、研修の中で現地のクリニックやハワイ大学の見学などをさせていただき、特に歯科の分野を中心にお話を伺いました。日本とアメリカの保険制度には大きな違いがあるため治療の考え方も違い歯科分野においても予防医学が中心となっていることには驚きを感じました。

現地で働かれている歯科衛生士さんの言葉で印象的だったことは「歯のメンテナンスは美容院に行くのと同じような感覚だ」ということです。悪くなってから歯科を受診するのでは莫大な治療費がかかります。そのため悪くなる前に普段からメンテナンスを受ける、そのことが後の健康状態にも影響してくるということでした。普段から予防に重点を置くことで、それが健康寿命につながっていく。あたり前のことのように思いますが、皆保険である日本では悪くなってからいけばいいという考え方が根強く、歯科の分野においてもまだまだメンテナンス率は低いという現状があります。

保険制度が違うといえど、団塊世代が後期高齢者に入ってくる2025年問題に向かい、予防医学という観点は日本の目指すべき姿ではないかと感じました。

なかにし はな

お弁当拝見 42 母のお弁当



近森病院
医事課 岡林 可奈子

近森病院に勤め始めて、十数年ぶりに母の作ってくれたお弁当を食べるようになりました。

学生時代は当然と思って受け取っていたお弁当ですが、慌ただしい朝に毎日作ってくれる母に、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな母のお弁当ですが、お茶目な母はときどき不思議な物を入れていることがあり、お昼休みにお弁当のふたを明けるのが怖くもあり、楽しみでもあります。いまでは、帰ってから母にお弁当



の感想を伝えるのが、親子の日課となっています。

おかばやし かなこ

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

おめでとう

人の動き 敬称略

図書室便り (2016年2月受入分)

- 骨粗鬆症治療薬の選択と使用法 骨折の連鎖を防ぐために／萩野浩（編）
- 仙腸関節機能障害 AKA- 博田法による診断と治療／片田重彦（編著）
- 輸血・移植検査技術教本／日本臨床衛生検査技師会（監修）
- 最新医学略語辞典第5版／斎藤泰一（他編）
- 医療六法平成28年版／中央法規出版（刊）
- 四訂 精神保健福祉法詳解／精神保健福祉研究会（監）

- 病院の実力2016年総合編／読売新聞医療情報部（編）
- 《別冊・増刊号》
- 別冊・医学のあゆみ 機能性胃腸障害のすべて／木下芳一（編）
 - 別冊 NHK きょうの健康 よくわかるうつ病 診断と治療、周囲の接し方・支え方／尾崎紀夫（総監）
 - BRAIN NURSING 2016年春季増刊脳神経疾患病棟超実践プログラム 観察・アセスメントスキルが身につく／高橋美

編集室通信

今年度も多くの新入職員を迎える事となります。毎年この時期は、自分が就職した当手を思い出しながら、気持ちを新たに、業務に励むよう努めています。入社当時は20代でしたが、今はもう30代になっています。気持ちはまだまだ20代。若い新入職員からパワーを分けてもらいながら、医療の現場へ貢献できる人材へ邁進していきたいと思えます。

はましん

2016年2月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,000人
新入院患者数	871人
退院患者数	878人

近森病院（急性期）

平均在院日数	16.35日
地域医療支援病院紹介率	62.15%
地域医療支援病院逆紹介率	126.29%
救急車搬入件数	519件
うち入院件数	238件
手術件数	418件
うち手術室実施	294件
うち全身麻酔件数	172件

● 2016年2月 県外出張件数 ● 件数 61件 延べ人数 109人

香（監）

- NURSING BUSINESS 2016年春季増刊看護管理者がリードする3ステップで成果を上げる！チームビルディング超入門／裴英洙（他監修）

《視聴覚資料》

- チーム医療の質を高める理学療法士になる〈急性期脳梗塞のリスク管理編〉
①急性期脳梗塞シミュレーション②リスク管理のための基礎知識～理解を深めるコンテンツ～／寄本恵輔（企・監）

寡黙で、機敏で正確で…

迷惑をかけることだけはないように

医療現場の求めに自在に応じ70年。病院設備・機器、ホームケアの草分けともいえる株式会社シーメックの、主要部門の一つが「C-HS 事業部」である。このCはChikamoriと社名シーメックの由来でもある「Care」「Customer satisfaction」「Comfort」を表わし、HSは「Hospital Service」の略になる。近森会担当二十数名の「C-HS 事業部」の実質指揮に当たるのが、入社30年のベテラン、津野部長代理である。

関わりの多い整形外科の衣笠清人統括部長からは、「寡黙で余計な話はしないが、仕事は機敏で正確」だと、「デキル人」の典型のようなコメントを頂戴した。

▼手術前室で整形外科手術用器具確認中



津野部長代理によれば、「物流管理代行業務に当たる我々の立場は、ミスなく正確に出来て当たり前なのです。病院スタッフの皆さんに迷惑をかけることだけはないように…なのです」と、裏方のミスが「即」患者迷惑に繋が

かねない緊張感をもって、仕事に臨む姿を話してくれた。そんなちょっとピリピリした感じが、津野部長代理を苦みばした刑事風コワモテに見せているのかも知れないし、社歴は長いが近森会担当まだ4年というお付き合いの期間も関係しているのかも知れない。

黙々と一所懸命に

高校3年のとき、たまたま当時、外食産業一号の出店が近所であり、「小遣い稼ぎと、就職にも有利になるかも」と始めたアルバイトが、結局は今日にうまく繋がったといえそうだ。

今日の姿同様に、「黙々と一所懸命働く姿」が、恐らく、当時の上司の目に留まったのだろう。県外出店が決まると、十代のマネージャーとして数少ない正社員に採用された。三交代制で、土日は当然のように仕事。なま身の人間相手の仕事で面白みも大きい、「歳とってから続けるには、余りにも負担が大きい。方向転換するなら今のうちかも…」で、3年勤めて帰郷。結婚もしていたため、帰郷の翌日から家族を養うための職探し。その日の新聞広告で最初に目に飛び込んで来たのが株式会社シーメック（当時の社名は土佐メディカルKK）だった。

3歳上の看護師の姉からは医療の道の価値や、やり甲斐を勧められたし、すでに在宅療法、酸素療法も始まっており、「長く続けられ、自分なりのやり甲斐も見つけられる」と、決心した。

裏方の誇りと緊張感

医療機器の拡販ではメーカーさんと車で移動しながら機器の特徴を習い、医師に必要とされそうな情報を得て伝え、現場で使う小さい機器類までチェックし…と、医療のあらゆる側面を経験してきた。

そして今日、「医療現場の裏方の一部ではなく、全部を請け負っている立場」としての誇りと緊張感が、日々の



▲休日のジギング釣りで、でっかい金目鯛を！楽しくて旨い！しかも、家族も大喜び！

エネルギー源ともなっている。

調理して、食卓にまで並べます！

とはいえ、むろん、オフには日頃の立場を抜きに、思い切り羽を伸ばして、英気を養う。月いち程度だが、いちばんの趣味は釣り。病院の人たちと出かけることもある。

「長く続けられるものを何か一つ」と、熱帯魚にラジコンに野球に…と色々手を出し、結局、落ち着いたのがジギング釣りだった。「やる以上は、テキトーに…はイヤだし、小遣いの上限もあり（笑）」で、この趣味は、「調理して食卓に並べるまでするから、家族にも喜んでもらえる。釣り道具の工夫は面白いし…」で、長く続いている次第。

三番目の女の子がまだ10歳で一緒によく遊んでくれるので、あちこち出かけるのも楽しみになっている。

「ひとことでは語れない存在感大の妻（笑）」も休みは一緒に過ごし、お互いを認め合う関係が続いている。

南海トラフ地震発生、 大津波から浸水までを想定して

近森病院 災害対策小委員会
近森病院 外来センター看護師長 山下 佐和



南海トラフ地震を想定した2015年度の防災訓練を2月20日に行いました。今年度は看護部・コメディカルを

中心に初期対応、待機訓練を既に9月と11月に2回行い、一定の結果を得ましたので、それらを踏まえた内容と

しました。

想定は土曜日午前10時にマグニチュード8前後の南海トラフ地震が発生し、10分後に大津波警報が発令され、30分後に2階まで浸水するという内容としました。

まず、津波浸水想定ของกลุ่มワークを1時間行いました。本部、ER、手術室、北館2階病棟の4グループに分け、災害対策小委員会の坂本明美主任が進行し、発災時、津波警報発令時、避難指示、津波到着時の活動を各グループ毎に検証し、参加者の意識と行動を共有化しました。

それぞれから多くの意見が出され、自分のグループ以外の部署での新たな気づきがありました。

その後本館、北館病棟に移り、上記の時間経過での初期対応～避難行動までの実動訓練を行いました。1階のERから待合患者や救急搬送患者を3階へ誘導搬送し、2階の手術室では手術を中止し4階へ、北館病棟2階の担当患者さんを3階へ、浸水の予想される1階の災害対策本部は9階会議室へ移動しました。近森病院附属看護学校の学生や教員10名を含み、四国管財の職員も加わり約300名の訓練となりました。今後も訓練を繰り返し行いたいと考えています。 やました さわ



▲ERから階段を使って3階へ



▲手術を中断し患者搬送を



津波浸水ของกลุ่มワーク

近森会 保育室 そろと

3月6日、みんなで、西島園芸団地に遠足に行ってきました。





職員旅行



カナダイエローナイフ

青森ねぶた



香森市文化観光交流施設

八甲田山頂駅マイナス10度



山頂公園 案内図



カナダイエローナイフ

五所川原ストーブ列車でスルメ焼き